



- ◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。
- ◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。
- ◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

# 一般質問

6月定例会では13名の議員が一般質問を行いました。本会議のネット中継及び録画配信を行っています。ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。



6月定例会において延べ46名の方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

## 生命を脅かす危機から市民を守ることに對し、市長の決意は

今後も覚悟を持って全力で市政運営にあたる



北野 唯道 議員



**Q** ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮のミサイル発射、各地で頻発する大規模地震、異常気象による大規模災害の発生、収束が見通せない新型コロナウイルスの感染拡大等、これまでになく我々の身の回りにまさに生命の危機を感じる状況が続いている。市単独の権限で対応できないことは承知しているが、市民が最も頼りとするのは一番身近な行政である市の対応である。こうした生命を脅かす危機から市民を守ることに對する、市長の決意について伺う。

**A** 地方自治の責務は、市民の「いのち」と「くらし」を守ること。換言すればあらゆる危機に對応すること。危機には災害などの直接危機と少子高齢化などの長期的に解決すべき危機がある。我が国を取り巻く国際環境は、力による一方的な国際秩序の根幹を揺るがすロシア、北朝鮮によるミサイル発射の脅威など、悪化の一途をたどっている。就任以来、様々な災害と向き合い、全力で取り組んできた。今後、あらゆる事態を想定し、多様な視点からしかるべき対応をしていく覚悟。困難と正面から向き合い、職員と一丸となり市政運営に全力で対応する。



## 重油等水質汚濁事故の防災体制の徹底を

窓口の一元化等により迅速な対応に努める



佐川 京子 議員



**Q** 重油流出水質汚濁事故の対応と備えさらに発生時の広報体制について

**A** 所管が多岐に渡るので、県は県南地方振興局環境課、市は環境保全課が窓口となり情報の共有化を図り迅速円滑な応急措置に取り組み。事故現場での常時監視体制も敷く。オイルマット、オイルフェンス等資材を常時確保し万全の体制を整える。防災無線も緊急性(生命・財産)の高い地域情報を個別に放送できる。緊急放送の手続きは、消防・警察・関係機関の依頼により精査し、放送している。



**Q** 米の消費拡大、PRについて

**A** 米の需要量は毎年10万トン減少し状況は厳しいが、農業経営に大影響を及ぼすので、消費拡大に向けた独自の取り組みを進める。新たなレシピ紹介や白河だるまパッケージさらに読売新聞グループでの広告等で新たな消費者獲得に繋げる。

**Q** コミネスの近隣に駐車場の確保を

**A** 施設の土地利用目的や費用対効果等多くの課題がある。

# 文化交流館コミネスを今後どのように運営するか何う



戸倉 宏一 議員



「文化芸術は生活の中にあっ存在意義がある」(宮田コミネス館長の言葉より)

も、農業用機械の安全運行を図るため広報紙やホームページ、市内農業機械店との協力による周知に努める。

心豊かで活力ある地域社会を実現する役割を担う



**Q** 文化交流館コミネスを今後どう運営するか何う。今年で開館6年目を迎える白河文化交流館コミネスをどう評価し、今後の運営方針を何う。

**A** 開館以来、様々な舞台芸術の鑑賞の機会を設け、また、人材や団体の育成にも取り組み、多くの市民が文化活動に参加するようになり、コミネスを通して文化芸術に親しむ土壌ができてきた。文化芸術が特別なものではなく、日々の暮らしに不可欠なものとして定着させていくことは、一朝一夕には成しえないが、コミネスが文化芸術の鑑賞、参加、創造の場として市民に愛され、応援されることで、心豊かで活力ある地域社会を実現する役割を担ってまいる。

**Q** 農作業の事故防止対策について

**A** 平成31年4月からの道路運送車両法が施行されたが周知、徹底されていないことは承知している。農業機械が大型化に伴う事故も重症化している。市として

# ヤングケアラーの相談窓口はどこになるのか



室井 伸一 議員

では、相互の連携事項として、①安全・安心な地域づくり ②地域活性化 ③災害対策 ④環境維持・保全 ⑤地域の福祉 ⑥教育支援の6項目を定めている。

児童福祉を担当する「こども支援課」になる



**Q** ヤングケアラーの相談窓口及び相談体制について

**A** ヤングケアラーに関する相談・支援は、児童福祉を担当する「こども支援課」が窓口となり、保健福祉部内はもとより、小・中学校及び教育委員会と連携し、個々の状況に応じ、公的サービスなど必要な支援につなげることで、児童の負担が軽減するよう取り組んでいる。ヤングケアラーの把握については、小・中学校の担任による日々の観察や民生児童委員をはじめ、こども食堂など困窮世帯と接する機会の多い民間団体の方や、介護や障がい者支援のケアマネージャーなど家庭を訪問する機会も多い職種の方々にも情報の提供をお願いし、その把握に努めている。

**Q** 白河市とヤマト運輸で行われた地域包括連携協定の内容について

**A** この協定では、相互の連携事項として、①安全・安心な地域づくり ②地域活性化 ③災害対策 ④環境維持・保全 ⑤地域の福祉 ⑥教育支援の6項目を定めている。



# 公立幼稚園全園を完全給食に!

完全給食にすることは難しい。状況に応じてお弁当給食の回数を増やす。



大木 絵理 議員

**Q** ニーズに合わせた子育て支援について、市の考えは?

**A** 貧困、児童虐待対策、赤ちゃんクーポン券配布などを実施している。子ども食堂等の団体と連携し、地域全体で子育てをしていく。

**Q** 現在公立幼稚園に通う子どもの半数以上が共働き世帯。子育て支援、食育の観点から公立幼稚園全園を完全給食にしてほしい。

**A** 大信(市内公立幼稚園における給食提供の状況)

提供状況	園数(計8園)
完全給食	1
お弁当給食 週3回	1
お弁当給食 週1回	2
お弁当給食 月1回	2
お弁当給食 年数回	1
提供なし	1

県内13市中完全給食とお弁当持参の園が混在しているのは白河市のみ

**Q** 複合施設の設置予定の「お仕事サポートステーション」「女性ワークスペース」はどのような内容になるのか。

**A** 子育て世代の女性のニーズを踏まえ、就労支援に加え、ワークシェアリングや短時間就労等の多様な働き方の推進等を考えている。

**Q** 高齢者等が利用できるタクシー助成券の範囲を市内限定ではなく、金額の上限のみにし、生活圏内の移動利用を可能にしてほしい。

**A** 市民から要望は何っている。範囲拡大を検討していく。

# 有機農産物の学校給食使用による地産地消の具体化を

前提の有機・環境保全型農業への生産者の理解のため関係機関と連携する



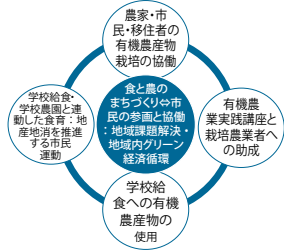
荒井 寿夫 議員



産物の地産地消の推進が必要であり、SDGsの目指す方向を体現するものと考えられる観点から計画に明記されているそれらの推進の具体策について問う。

A 本市の小学校・保育園等の多くで菜園活動が実施されている。「しらかわマルシェ」のような消費者との交流機会を拡大する。

環境保全型農業への生産者の理解を得るために県やJA等の関係機関と連携する。



有機農業・学校給食・食農教育・地産地消の好循環

Q 障害者の文化芸術の鑑賞機会の拡大について二〇一八年の「障害者文化芸術活動推進法」に則し特にコミネスの現状と評価を問う

A 視覚障害と下肢障害の一級・二級の本人と介助者対象に半額割引を行っている。鑑賞機会として「バリアフリー演劇」を開催した。設備面や職員の対応、障害者向けの企画について検討していく。

Q 「第3次白河市食育推進計画」について、ウクライナ侵略と円安のもと食料安全保障が問題の今、有機農業・環境保全型農業を拡張しその農産物を学校給食に使用し食農教育を連動させ生産者・消費者交流に依拠した有機・環境保全型農業

# 180畝の石垣丘陵の綺麗な景観づくりは

宝酒造跡地の発掘調査は計画が決まってから



柴原 隆夫 議員



杉の木が伐採され、180畝の壮大な石垣が姿を現わした。「北口玄関」の新しい顔となる、この城跡の石垣丘陵を綺麗に整備してはどうか。

A 北の玄関口として、新たな景観が生まれることから、石垣のある北側丘陵の景観形成づくりに努める。

Q 宝酒造跡地を利用するには埋蔵文化財の発掘調査が必要となり5000平米で4年から5年の月日がかかり、全体で18000平米あるため発掘調査には相当な年数を要す。国道294号白河バイパス完成により宝酒造跡地の利活用の価値が高まることから、計画が決定してからはなく、利用計画が直ちに定められるよう先行発掘調査を進めておくことが必要かと考える。

A 現状保存も考慮する必要から、土地利用の計画が明らかとなった時点で対応を検討する。

Q 国道294号白河バイパスの完成により4号線と東北自動車に直結する新しい白河の「北口玄関」が得意「人と物」の流れが盛んになり、白河の新しい姿が形成される。小峰城跡の北側丘陵の



見事な180畝石垣の東側丘陵

# 食料の安全保障について、市長に問う

市としても、食料の自給率向上等に向けた施策を推進していく考えである



大竹 功一 議員



ため大規模化や高収益化により農地を最大限に活用するとともに、家族経営や兼業等への営農支援、新規就農者の育成等を推進し、将来の担い手を確保していく取り組みを一層推進していく。

Q 食料同様、エネルギーについても重要な問題である。現状はどのような状況なのか。

A 元年度の国内における石油・石炭・天然ガス・再生可能エネルギー等を含めた電力発電エネルギー自給率は、12.1%となっている。市の公共施設における太陽光発電設備は、表郷庁舎など21か所あり、今後はできることからやりたい。

Q 日本は食料を海外に依存し、自給率は先進国中、最低だと言われている。市民の暮らしを守る市長として現在の食料の安全保障をどのように考えているのか。

A 農業の生産基盤を将来にわたり維持していくことが極めて重要である。その



# 公共施設内男子トイレにサニタリーボックス設置を

検討の上、できるものから速やかに設置する



須藤 博之 議員



**Q** 公共施設男子トイレ内にサニタリーボックスを設置することについて

**A** 衛生用品を使用する方のためのサニタリーボックスの設置が各地で広がりをみせている。市でも管理上の課題や必要数を検討し、できるものから速やかに設置していく。



**Q** 小学生のランドセルの現状と対策、「さんぼセル」について

**A** 一年生は約3.1kg、六年生は約4.7kgで、軽くするため国語・算数の教科は持ち帰り、他の教科は持ち帰らず教室に置いておくなど工夫をしている。さんぼセルについては、保護者が十分検討した上で使用判断をしていただく。今後もランドセルの重量が負担とならないよう配慮していく。



**Q** これからの市史編さんと毎年の定点撮影について

**A** 歴史としての考察や評価の面で、ある程度の期間が経過した後に判断し、事業を実施する際には、担当する組織を立ち上げて取り組む。広報紙の取材などを通じて、できる限り多くの写真を残していく。

# コミネスと図書館共有駐車場にできないか

図書館西側駐車場の中にコミネス用駐車スペースは5台ある



大花 務 議員



**Q** 複合施設に公民館機能が入ることを踏まえ、公民館活動の「生きがいづくり」について鈴木市長の考えを伺う。

**A** 自主運営による様々なクラブ活動の拠点として若年層から高齢者までの幅広い世代の市民が、気軽に立ち寄ることができる空間を提供し、市民の生涯にわたる学習活動の場をさらに充実・発展させ多種多様な生きがいづくりに繋げてまいりたい。

**Q** 令和4年度に中止になった駅伝名と理由について

**A** 「しらかわ駅伝競走大会」と「しらかわ郷里マラソン」である。理由はコロナ禍における開催による感染拡大のリスクを避けるためと参加チームが半減したため。しらかわ郷里マラソンも同様だが、今度の大会が20回という節目の記念大会となるため、コロナ対策で制限をかけて実施するより、次年度以降に延期し、記念大会として盛大に開催した方が望ましいと判断されたためである。

**Q** 図書館駐車場をコミネス来館者にも利用できないか。

**A** 図書館の休館日や来館者が少ない場合には一般の方の利用も可能と検討中。



# 経済圏、生活圏のリーダーとして近隣市町村をどう牽引していくのか

リーダーシップを発揮し、賑わいや活力を維持、再生していく



高島 裕 議員



**Q** 白河市を中心とした経済圏、生活圏をどのように捉え、圏域のリーダーとして、どのように牽引していくのか。

**A** 時にはリーダーシップを発揮し、時にはパートナーとしてタッグを組みながら地方で暮らすことの豊かさを実感できる地域づくりを圏域全体で進め、賑わいや活力を維持、再生していく。

**Q** 市の婚活事業の今後の課題と取り組みについて

**A** 新たな成婚者を増やすために、結婚への促しや世話やき人の育成などのセミナーを実施し、結婚支援へのニーズについて対象年代の拡大も視野に入れていく。

**Q** 政治や選挙に関する教育について

**A** 市議会の傍聴、議場見学、市長と語る「しらかわ未来フォーラム」の機会を通じ、児童、生徒が有権者になった時に政治や選挙に対しての興味、関心が高まるような教育を継続していく。



# 安全・安心のまちづくりのための危機管理について

命と暮らしを守るべく、市長として先頭に立ってまいる



山口 耕治 議員



と、みんなで助け合うこと、行政が行うこと」それぞれが役割を果たした中で、地域における強い連帯感が生まれたものと考えている。

これらの力を活かして、市民の暮らしに安全と安心感のある住み良いまちづくりを行うとともに、起こりうるであろう様々な危機から市民の命と暮らしを守るべく、市長としてこれからも先頭に立ってまいる所存である。

**Q 成年年齢引き下げによる本市の成人式の考え方について**

**A** 本市における成人式は、令和5年以降もこれまでと同様に二十歳で開催することとして

いる。なお、式典の名称については実行委員の意見を参考にしながら、秋までに決定してまいりたいと考えている。



**Q** 原子力発電所の事故に対する危機を乗り越えた経験・実績について、また今後発生する多様な事態への危機管理の充実について

**A** 未だかつて誰もが経験のない大震災や原発事故などの災害を乗り越えてきた実績から「自分ですべきこと

# 教職員の多忙化は、解消の取組みで少しずつ解消している!?

「教職員不足」の問題とも関わり、国の教育行政の構造的な問題なのではないか



深谷 弘 議員



ているが、まだまだ改善していかねばならない状況であると考えている。

**Q** 多忙化解消は、「給特法」や「教員不足」の問題とも関わっている。教育予算も含め、国の教育行政の構造的な問題であり、起こるべくして起こっているのではないか。

**A** 更なる教員の配置の拡充が必要であり、県教委に要望していく。原発事故から11年の課題

**Q** 最高裁の判決により東京電力の責任は確定し、国の基準を超える賠償額が確定した。「中間指針」(国の賠償基準)を見直し、賠償を原告だけでなく、すべて県民・市民を対象にすべきであると考えているが、見解を。

**A** 指針の見直しを含め、賠償のあり方等について、国は責任をもって速やかに進めていただきたい。



**Q** 教職員の多忙化解消  
教職員の時間外勤務時間は、平成28年から6年間のデータ(月平均、過労死ラインの月別人数・割合)を見ると減ってきているが、どう受けとめているか。

**A** 年々少しずつ多忙化解消の取り組みの成果が表

# 全国市議会議長会総会で受賞



上段左から筒井孝充議長、石名国光副議長、  
下段左から菅原修一、深谷弘、緑川摂生

25年特別表彰 深谷議員  
15年表彰 菅原議員、  
10年表彰 緑川議員  
去る、5月25日、全国市議会議長会第98回定期総会において、深谷弘議員が「市議会議員として25年の長きにわたって市政の発展に尽くされ、その功績は特に著しいものがある」として特別表彰されました。  
菅原修一議員は市議会議員として15年、緑川摂生議員は10年の功績を認められ、全国市議会議長会から表彰されました。